



環境省レッドリスト(2018) 絶滅危惧 I B類(EN)

「ヘラブナ」の名で親しまれ、最大全長は50cmに達する大型のフナ。北潟湖産 全長:約45cm

コイ科 フナ属

【最大全長】50cm

ゲンゴロウフナ

俗名:ヘラブナ

学名: *Carassius cuvieri*

分布域

原産地は琵琶湖・淀川水系。
移殖により全国に分布を拡大。

生息域

大きな河川の中流～下流域・
湖沼や池・ダム湖など。



釣りの対象魚として全国に移殖される。

日本に生息するフナの仲間でも最も体高が高い。背面側、腹面側の外縁は背鰭、腹鰭の基点付近からなだらかに細くなる。眼はやや大きく低い位置にある。鱗の外縁は暗色で網目模様に見える。生息域は沖合いの表層～中層部を群で泳ぎ、植物プランクトンを鰓耙で濾し集めて食べる。その為、鰓耙は他のフナ類と比較して大きく密になる。産卵期は4～6月。雨で増水した時に水草などに粘着卵を産み付ける。

水槽での飼育は可能。餌は植物質の配合飼料を与える。他種との混泳にも問題はない。成魚は水槽の環境や配合飼料に慣れるまで時間を要すが、比較的丈夫で性格も比較的温和。

移入種

純淡水魚

※ 釣りの対象魚(ヘラブナ)として、全国に移殖・放流され定着している。代表的な人為的移入種。水産資源(食用)としても利用される。